

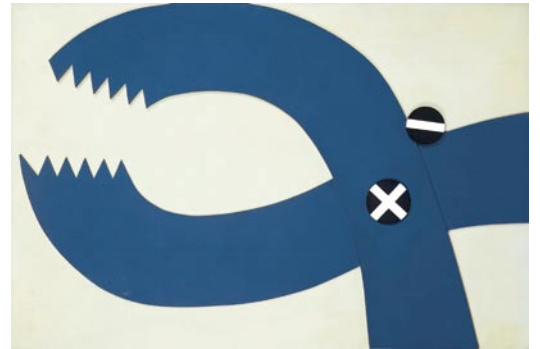
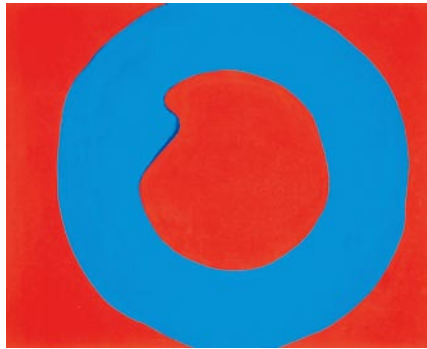
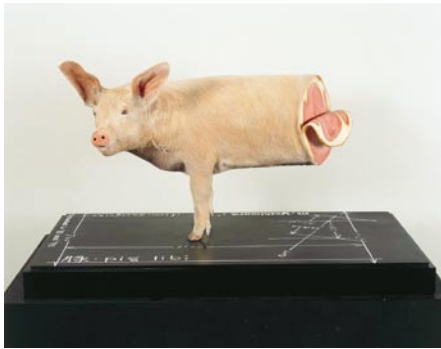
ICOM京都大会開催記念

集めた!日本の前衛—山村徳太郎の眼 山村コレクション展

2019年8月3日(土)—9月29日(日)



村上三郎《作品(空)》の再制作を見守る山村徳太郎
1984年、アートスペース(西宮)にて
撮影:小野和則



左より吉村益信《豚・pig lib》1971年、吉原治良《作品》1966年、齋藤義重《ペンチ》1967年 いずれも兵庫県立美術館(山村コレクション)

前衛美術の一大コレクション、約20年ぶりの大公開!
抽象のパイオニアから、世界の「具体」、80年代のニュー・ウェイブまで。
今こそ新鮮な前衛美術の数々。

「山村コレクション」とは、兵庫県西宮市に在住していた企業家、山村徳太郎(1926-1986)が収集し、没後、当館に一括収蔵された作品群です(68作家、167点)。山村は「アブストラクト(=抽象)と人間くさい前衛のはざま」という独自の方針のもと、まだ評価の定まらない新しい表現を、いずれは公共の財産となる前提で、自分の眼で確かめ集めました。結果、「山村コレクション」には、戦後美術史を語る上で欠かせない数々の重要作が含まれています。

この一大コレクションの全体像を、企画展示室に加え別棟のギャラリーも会場に、約20年ぶりに、かつ過去最大の規模で紹介します(出品数:約140点)。

関連イベント

■記念講演会「山村コレクションは美術館に何を問いかけるか」

尾崎信一郎氏(鳥取県立博物館副館長)
9月1日(日) 14:00~(約90分)
ミュージアムホールにて(定員:250名) 聴講無料
※兵庫県立美術館「芸術の館友の会」会員優先座席あり

■担当学芸員によるテーマ・レクチャー

①聞き取りと紙資料から描く「山村コレクション」収集物語
江上ゆか(当館学芸員)
8月24日(土) 16:00~(約60分)
②山村徳太郎の具体コレクション
鈴木慈子(当館学芸員)
9月14日(土) 16:00~(約60分)
いずれもレクチャールームにて(定員:100名) 聴講無料

■担当学芸員によるギャラリー・ツアー

8月17日(土)・9月21日(土) 18:00~(約45分)
展覧会場入り口に集合 要観覧券

■こどものイベント

8月10日(土) 13:30~16:00
※詳細は兵庫県立美術館HPをご確認ください。

■ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中の毎週日曜日 11:00~(約15分)
レクチャールームにて(定員:100名) 聴講無料

観覧料

一般1,300(1,100)円、大学生900(700)円、高校生以下無料

※()内は前売および20人以上の団体料金

※前売は8月2日(金)まで販売

[高齢者・障がい者割引]70歳以上650(550)円、障がい者・一般300(250)円、

障がい者・大学生200(150)円 ※()内は20人以上の団体料金

※一般以外の料金には証明できるものの提示が必要です

※障がいのある方1名につき、介護の方1名無料

※70歳以上、障がいのある方は、会期中、館内券売所でのみ販売